

未来へ語り繋ごう！ふるさと小国の宝

公民館名	小国公民館	人口（令和2年12月）	171人
		世帯数（ 〃 ）	87戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

自治区内でも少子高齢化率が高く地域存続も段々と危ぶまれてきているが、地域行事を通じて住民が、企画・運営に携わる事で他地区に負けない活動が出来ていると思っている。少子高齢化ではあるが、今後も交流や関係人口を増加・地域活性化のため公民館が地域と一緒に取組みを盛り上げてきた。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) 春 『小国の自然に親しむ会』



都市交流の一環で始めた事業で、地区民総出で運営の事業。4町内で食の担当を決め、小国の春を満喫してもらっている。特産品の販売や抽選で『小国の特産品』が当たったりと人気もあり、年々来場者が増えている。

(2) 夏 『おぐにふるさと学校』

運営推進委員と企画・運営をしている事業。キャンプや川の生き物観察、川遊び、魚のつかみどり。体験学習の場で、親子世代を巻き込みきっかけになっている。



(3) 秋 『ふれあい文化祭』



保育園の発表会と地区民の学習発表の場。町内会や各教室で趣向を凝らした発表の場である高齢化が今後の大きな課題でもある。

(4) 冬 『とんど焼き』

小国の伝承行事の一つで冬の風物詩である。雪の中大変ではあるが、自治会や共催団体で運営して、一年の無病息災を祈念している。



(5) 『ふるさと地域学習』



歴史的遺産や豊かな自然、人物などの宝を大切に思い、残し、語り継いでいけるよう人材育成をする必要がある。学習会を継続して行い、小国を歩いて『宝探し』をしていきたい。